

岡崎市都市計画マスタープラン（改定原案）に対する意見と市の考え方

【概要】

- ・パブリックコメント募集期間：令和2年11月10日（火）～12月10日（木）
- ・意見提出方法：直接持ち込み、郵送、ファックス、電子メール、電子申請総合窓口
- ・提出人数：9人（団体含む）
- ・意見件数：29件

意見の内容は、下記に示す。

	意見	市の考え方
【都市計画マスタープラン全体に関するご意見】		
1	<p>平成28年7月に出された岡崎市土地利用基本計画の計画基本プラン、観光産業都市の環境整備に対して基本的には反対である。</p> <p>市民が住み続けたいと思うのは、「教育や福祉、公共サービスの充実した街」である。また、地球温暖化に対しての取り組みにも真摯に対応している街でこそ誇りが持てると思う。</p> <p>つまり、徹底して住民サービスしてくれる街、クリーンエネルギーの街に向かう最先端の街である。</p>	<p>市民意向調査では、8割の市民が住みやすいと感じており、その理由としては、多い順に、買い物の利便性がよい、交通の便がよい、災害の危険性が少ないとなっています。市民ニーズの他、本市の都市づくりに関する課題を整理し、都市計画マスタープランを策定しており、全体構想の都市像3「住みやすい、住み続けられる都市」の目標1において、「暮らしやすさと豊かさを実感できる快適な居住環境の創造」などの目標を掲げ、土地利用、市街地整備、道路・公共交通などに関する施策に取り組んでいきます。</p>
2	<p>都市計画マスタープランの実施を含めて延期願いたい。原点に戻って、精緻な議論を積み重ねることを提案したい。</p>	<p>第7次岡崎市総合計画などの上位・関連計画との整合、社会情勢の変化、本市主要プロジェクトの進捗などから今回の策定が適当であると判断しています。市民参加として、各地域で合わせて16回の説明会、図書</p>

		館交流プラザでのオープンハウス、支所・地域交流センターなどでのパネル展示、企業アンケート、パブリックコメントを実施し策定を進めています。
3	具体的な計画・施策案は個別部局なら案件別の担当部署と計画や参加方法を知りたい。	具体的な計画などについては、本市ホームページトップページのガイドナビ内の市政の計画・ビジョン内に掲載しています。また各個別計画策定の際は、パブリックコメントなどによって市民意見を考慮しています。
4	都市計画マスタープランへ市民の声を反映させるためには、地域毎に都市計画に関心のある地域代表と市で継続的、組織的な勉強会を積み重ね、地域像を築き上げることが必要だと思う。また、勉強会の途中経過を回覧板やインターネット等で地域にフィードバックすることや専門家を交えての勉強会も必要だと思う。	都市計画マスタープランにおいて市民の声を反映するために、各地域で合わせて16回の説明会、図書館交流プラザでのオープンハウス、支所・地域交流センターなどでのパネル展示、企業アンケート、パブリックコメントを実施し策定を進めています。また、市民の方が、地域像を築き上げることや、まちづくりの提案を実施するために必要な情報提供や知識の共有を図るため、ホームページなどでの情報公開や出前講座、中学校での授業などを行っています。新しい勉強会の形式などについては、ご意見を参考とさせていただきます。
5	パブリックコメントに市長への意見がないのがとても残念です。	パブリックコメント制度は、市の基本的な政策などの策定にあたり、事前にその内容を公表し、公表したものに対する意見の提出を受け、提出された意見を考慮して意思決定を行うとともに、提出された意見の概要と市の考え方を公表する一連の手続です。 なお、市政への意見は、岡崎市ホームページなどで常に募集しています。

【全体構想の分野別都市づくり計画に関するご意見】		
6	<p>基幹とする産業がわからない。</p> <p>例えば「岡崎を日本のシリコンバレーに」</p> <p>そうすれば大学、研究所の誘致も絞り込み易い。</p> <p>自動運転なども積極的に試験導入する。京都みたいに基盤目ではなく、古い道路、新しい道路、山道などパターンが多くいろいろ試せる。</p>	<p>本市は、西三河地域において豊田市、安城市に次ぐ3番目の工業製品出荷額であることから基幹産業は製造業ととらえています。</p> <p>そのうえで、次世代産業の創出を図ることで持続可能な産業構造の構築に取り組む考えです。</p> <p>また、自動運転については、本市で一部試験導入を実施しており、全体構想の都市像2の目標において新技術の導入による地域課題の解決に取り組むことを掲げています。</p>
7	<p>2030年問題にも関わる市営の電気バス路線や無電線のトラムを作り、全線一律〇円から徐々に無料化する。(2030年に向けて既存のバス路線を検討し、ガソリンバスから電気バス導入を進める。またトラムは並行して部分的に導入する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低料金の電気バスを市が補助し、徐々に無料化すれば岡崎への感謝や郷土愛が生まれ、魅力的な街になるのではと考える。 ・CO2による地球温暖化に影響を与えるので、電気バスかトラムの導入を考える。 ・無電線のトラムにより慢性的な交通渋滞の解消やトラムの美観が岡崎の街の魅力になりえるのではないか。 	<p>2030年問題とは、2030年に3分の1近くが65歳以上の高齢者となり、労働人口の不足から日本経済の鈍化や高齢者医療など社会保障が懸念される問題のことと理解しています。公共交通については、人口の85%をカバーし、郊外部などの赤字路線へは補助金を投入しバス路線を維持しています。市街化区域の大部分が鉄道もしくはバスの利用圏であることから、都市計画マスタープランや立地適正化計画、地域公共交通網形成計画に基づき、引き続き維持、活性化に取り組むこととしています。</p> <p>また、次世代モビリティや新技術を活用することで、過度に自動車にたよることなく生活できるよう利便性を高めることとしています。</p>
8	<p>都市計画マスタープランの原案は新市長の選挙公約との関連性について触れていない。「東西南北地域力アップ市民会議設置(多極分散型まちづくり)」や「まちバス整備検討</p>	<p>都市計画マスタープランでは、各地域に拠点を設定し、それぞれを公共交通で結ぶ、いわゆる「多極ネットワーク型の都市構造」を目指しており、例えば、公共交通に関する具体施策については、「地域公共交通網</p>

	<p>会議を各地に設置」については都市計画マスタープランではどのような扱いになるのか。</p>	<p>形成計画」などの関連計画に基づき、地域での主体的な取組みを基礎として検討していくことが記載されています。</p>
9	<p>交通網も新鮮味がない。 例えば「地下鉄桜通線を東進させ大樹駅、岡崎 SA 駅」 そうすれば自然環境保全ゾーンに大学や研究所、データ基地などを誘致しやすい。</p>	<p>都市計画マスタープランは、土地利用、市街地整備、道路・公共交通などの都市計画部門に関する具体的な方向性や施策方向を示す 10 年間の計画として策定しています。いただいたご意見は参考にさせていただきます。</p>
10	<p>自転車環境を充実させてほしい。 ・岡崎は平地あり、山あり、川ありなので技量・趣味に合わせた多彩なルートが設定できる ・矢作川から乙川上流までずっと河原を走れるといい。 ・自転車道マップおよび標識・WI-FI の作製・整備 ・自転車のイベントを多く規格・開催する。 ・自転車スタンプラリー</p>	<p>都市計画マスタープランの全体構想分野別都市づくり計画の道路・公共交通に関する方針の中で、「安全で快適な歩行者、自転車通行空間の確保」を掲げ、「だれもが安全で安心に移動できる道路空間を整備促進する」こととしています。この位置づけや岡崎市自転車ネットワーク計画などを基に、自転車通行空間の効果的、効率的な整備に向け、取り組んでいきます。</p>
11	<p>クリーンエネルギーの地産地消で CO2 を削減するよりも大きな自治体新電力へ ・あらゆる公共施設に太陽光発電などを取り入れる。自前ではなくとも民間に屋根貸しをしてその傍目から太陽光パネルを付けるようにする。 ・民間の地域新電力を支援し、企業の RE100 を支援して余剰電力を自治体新電力の電力として買い上げる。 ・卒 FIT 発電を自治体新電力の電力として買い上げる。 ・し尿によるバイオマス発電、額田の木質バイオマス発電</p>	<p>エネルギー施策に関し、都市計画マスタープランの「都市づくりの主要課題」において、「エネルギーマネジメントシステムなどの新技術の導入によるコンパクトなまちづくりに取り組むことが必要」としており、全体構造の都市像 2「将来にわたって持続可能な都市」の目標 5 において、「新技術を市民や事業者などと行政が連携しながらまちづくりに活用し、環境、防犯、交通、福祉、健康、防災といった様々な課題に取り組むことで、持続可能な都市の実現を目指す」こととしています。 また、再生可能エネルギーの利活用については、第 2 次岡崎市環境基本計画案において、市有施設への導入に当たっては、関係各課等との協議</p>

	<p>を創設し、電力を買いあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余剰電力やRE100の支援でI、J、Uターンのできる魅力的な職場がある街にする。 ・住宅建築のとき、太陽光発電の一層の推奨、補助金を拡充する。 <p>※都市計画と自治体新電力はどんな公共施設をどのようにつくるかで関わってくる。</p>	<p>によって整備の優先順位付けを行うことや、一般家庭向けの施策としては、エネルギーの自家消費や将来的な一般家庭も含めた地域のネットワーク化を見据えて、対象設備等を適宜見直したうえで補助制度の継続などを記載しています。</p> <p>いただいたご意見を今後の参考とさせていただきます。</p>
1 2	<p>高齢化問題と老人福祉施設の不足の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画では空家状況、市営住宅の状況も踏まえ、地域密着型の老人福祉施設の計画的な増設が求められる。 	<p>都市計画マスタープランでは、全体構想の都市像3「住みやすい、住み続けられる都市」の目標1において、「暮らしやすさと豊かさを実感できる快適な居住環境の創造」を掲げ、生活の身近なところで医療、福祉などを利用できるよう都市機能の誘導を図ることとしています。また、都市計画マスタープランの一部である岡崎市立地適正化計画においては、住まいの身近に日常生活に必要な機能を中心に確保を方針に、通所系介護施設などの高齢者福祉施設を都市機能誘導区域内に誘導する施設として位置づけています。</p> <p>なお、岡崎市地域包括ケア計画（第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画）（案）において、後期高齢者数、要介護認定者数ともに増加する予測です。この計画の中で、地域密着型サービスの利用増加が見込まれることから介護保険サービスの充実として、施設整備計画などを位置付けています。</p>
1 3	<p>矢作川とその支流が流れており、山間部においては湿地、池、沼等点在し、希少種の草木が生育している森もあり、海以外はほとんどの自然環境に恵まれている。しかし、こ</p>	<p>都市計画マスタープランの全体構想の都市像4の目標において、「地域資源を活用した観光まちづくりの推進」や、分野別都市づくり計画の景観・自然環境の分野において、「歴史・文化資源のネットワーク化によ</p>

	<p>これらの内、日ごろから市民並びに市外の来訪者が気軽に触れ楽しめる場は限定的である。</p> <p>東公園からやすらぎ公園を通過して長野まで通じる塩の道「道根往還」や小美湿地は知名度が低く、もう少しアピールが必要だと思う。</p>	<p>る観光振興の促進」などを掲げ、景観形成と自然環境の保全を図ることとしています。これらの目標や方針、関連計画の基に自然環境に親しむ施策を展開していきます。</p>
1 4	<p>文化施策があいまい。</p> <p>歴史遺産はお寺を含め多いが今のままではだめで、常に時代に合わせて変化が必要でそれを市がバックアップする施策がある。</p>	<p>都市計画マスタープランの全体構想の都市像4の目標において、「地域資源を活用した観光まちづくりの推進」や、分野別都市づくり計画の景観・自然環境の分野において、「景観計画に基づく歴史・文化資源や景観資源の保全」などを掲げ、景観形成と自然環境の保全などを図ることとしています。これらの目標や方針、関連計画を基に文化に関する施策を展開していく考えです。</p>
1 5	<p>本市の歴史は、日本武尊、源義経、新田義貞、足利尊氏等、近世では、志賀重昂、本田光太郎、木村資生等世界に名の知れた博士たち、また音楽では富田勲、文学では川瀬康男等やはり世界的名声を得た人物がいる。しかしこれらの人々を紹介し、偉業を知らしめる場が乏しい。</p> <p>もうそろそろ家康オンリーから脱却し、本市の長い歴史とゆかりの人物について順次光を当て、まずは市民から始めて徐々に外へ向けてアピールしていくべきと考える。</p> <p>郷土館に相当する施設の不在は大問題である。そのほかにも市民ホールや市内に3つも存在する美術館の再考も含めて、市民を交えての会議等を開催して決めていくべきである。</p>	<p>都市計画マスタープランの全体構想の都市像4の目標において、「地域資源を活用した観光まちづくりの推進」として、「本市の豊富な自然・歴史・文化といった地域資源を、市民自ら活用、発信することで、市民も来訪者も楽しむことができる観光まちづくりの推進」を掲げており、今後これに基づく施策を展開していくこととしています。</p> <p>なお、郷土館（旧額田郡公会堂及物産陳列所）は、耐震性能の不足から平成22年度より閉館しています。担当部署により、旧額田郡公会堂及物産陳列所保存活用計画を平成30年に策定するなど、文化財の価値を活かした活用方法を見据えて保存修理を進めていくものとしています。</p>

<p>1 6</p>	<p>公園、体育館、各競技場、小中学校の整備と同時に防災機能を導入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南公園、中総、籠田公園などすべての公園や公共施設に太陽光発電や多目的トイレをつくるようにする。(巨大地震などに対する防災機能を持たせる。) ・体育館、校舎の老朽化とともに太陽光発電の導入、多目的トイレ、エアコンなどをセットで考えていく必要がある。 	<p>災害対策は、都市計画マスタープランの他に、岡崎市地域防災計画や岡崎市地域強靱化計画を策定し、防災・減災対策に取り組んでいます。それぞれの計画にて、防災拠点などの電力確保を掲げており、電力供給遮断などの非常時においても、避難住民の受入れを行う避難所や防災拠点などでは、機能維持などに電力を必要とするため、非常用電源の充実や、再生可能エネルギーなどの導入を推進するとともに、非常用電源の耐震化や水害対策を推進することとしています。</p> <p>また、体育館、校舎の老朽化対策計画や校舎建設時における太陽光発電設備の導入を検討するとともに、速やかに避難所の良好な生活環境を確保するため、各種事業所と協定を締結し、空調機器や簡易に設置ができる多目的トイレなどを緊急調達できる体制を構築しております。</p>
<p>1 7</p>	<p>災害対策が積極的でない。</p> <p>岡崎は内陸部で崖を除けば岩盤もしっかりしていて地震に強そうなので、ただ生命・生活を守るだけでなくもっと他の地域の災害支援基地になるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模の発電所をたくさん作り、災害時に山間部の水力・風力・太陽光発電を利用して電力の多角化を図り、災害時に中電からの送電がなくても全国の発信局・データ基地局・WEB 会議中継局などの役割を担う。平時はその電力はデータ基地などの運用にただで提供し IT 産業を誘致。 	<p>岡崎市では、内陸部に位置するため、津波による被害の想定は無いものの、液状化や家屋倒壊、地震火災による被害が想定されており、77の自治体と協定を締結し、それぞれ被害が甚大な地域に相互に支援を行うことができるよう、岡崎市地域防災計画に基づき、体制確保に努めています。</p> <p>また、岡崎市地域防災計画や岡崎市地域強靱化計画にて、防災拠点などの電力確保を掲げており、電力供給遮断などの非常時においても、避難住民の受入れを行う避難所や防災拠点などでは、機能維持などに電力を必要とするため、非常用電源の充実や、再生可能エネルギーなどの導入を推進するとともに、非常用電源の耐震化や水害対策を推進することとしています。</p>

【地域別構想に関するご意見】		
18	<p>コンベンションホールは、安く気軽に市民が使い、イベントもできるホールを作って欲しい。関わる企業や利用する団体など、市民ともたくさん「好循環」が生まれることが期待できる。また、ホテルの立地など周辺環境が良くなると嬉しい。</p>	<p>コンベンションホールについては、賑わいと交流を創出する施設の誘導とし、検討を進めていきます。</p>
19	<p>コンベンションホールの計画地は、東西南北の史跡との回遊も含めて、まちバスの発着地とするなど、利用しやすいものとしてほしい。まちバスに歴史案内人を配置して必要があればバスに乗車して案内をするなど、臨機応変なバス運営をすることにより、市民にも歴史を身近に考えてもらえるようにする。また、小中学校の授業にも組みこむことにより大人から子どもを通した市民としての誇りを持つこともできる。</p>	
20	<p>リバーフロント整備と合わせて以下の施設整備をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料駐車場 ・子どもの無料預かり所 ・高齢者を介護するための休憩所や一時預かり所の介護施設 ・河川敷での無料バーベキュー広場 	<p>乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画QURUWA戦略は、乙川リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用した公民連携プロジェクトを実施することによりまちの活性化（暮らしの質の向上、エリアの価値の向上）を図るものです。公共の担い手としてパブリックマインドを持つ民間も担い手となり、事業性と公益性をもって公共サービスを提供していくものです。いただいたご意見は参考にさせていただきます。子育てや福祉などの施設についても立地誘導を図っていく考えです。</p>

2 1	<p>広域商業施設の誘致を契機に本宿地区を「地域拠点」から東の「準都市拠点」に引き上げることを要望する。</p> <p>本宿駅周辺の市街化編入予定地域の現A・B地区を「周辺商業地」、C地区を「一般住宅地」に指定することを要望する。そのなかで、商業施設や医療施設等の地域住民の日常生活に必要な機能の集積が望まれ、旧額田町地区も含めた東部地域全体の活性化が図れるものである。</p>	<p>広域観光交流拠点との連携を考慮し、本宿駅周辺の拠点の位置づけを修正しました。</p> <p>拠点性・まちづくりで導入する都市機能などを総合的に考慮し、まちづくり構想図における区分を修正しました。</p>
2 2	<p>岡崎の東の玄関口である東部地域の拠点（街）の開発「広域観光交流拠点を中心に、賑わい憩いの場・駅前広場・市行政機関等を一体とした新市街地（コンパクトシティ）を目指す。」ことを提言とします。</p>	
2 3	<p>東部地区はアウトレットパークの立地により、道路・交通問題、環境破壊が大きな課題となる。住民が安心できる施策の実施が重要であり、東部地区の国道1号・東名高速道路を渋滞させない為の方策を立案・実施してほしい。</p>	<p>都市計画マスタープランに基づいた道路の整備・改良に関し、関係する部署と連携を図り、いただいたご要望も参考にし、地域のご理解・ご協力のもと、交通渋滞緩和及び良好な市街地形成のための道路整備の検討を進めていきます。</p>
2 4	<p>東部地域の国道1号・東名高速道路を渋滞させない為の方策を立案・実施してほしい。</p>	
2 5	<p>アウトレットができることにより、池金町字上大入地区及び、字下大入地区に住んでいる方が出入りする道路幅が4mしかなく、又行き止まりの道路のため車の出入りが非常に困難になるので、現在の上池金遊園地（池がねこども広場）の部分だけでも道路幅を5.5mに拡幅していただきたい。</p>	

26	旧東海道まちなみ景観の形成を東部（藤川、山中、本宿）全体に展開し、旧東海道ウォーキングを観光交流の要素にも活用する。そのため、街道全体の無電柱化、統一感のある街灯などの整備が必須である。	都市計画マスタープランの他に、関連計画である「岡崎市景観計画」や「歴史的風致維持向上計画」と連携・整合を図りながら、各種施策について検討していきたいと考えています。
27	岩津地域の支所移転の問題は、都市計画マスタープランで触れられていないが、「岩津」の再生や岩津（北部）地域全体への公的サービス供給の観点から極めて重要なテーマだと思う。	地域別構想（岩津地域）においては、「都市機能の強化と都市基盤整備による利便性の高い居住環境の整備」を目標としています。そして、土地利用に関する方針と主な施策の中に、「準都市拠点・地域拠点の形成」として、「地域拠点の岩津バス停周辺では周辺商業地及び沿道複合地などを配置し、商業施設や医療施設などの都市機能の誘導や地域住民に必要な公共施設の立地を図る」こととし、将来にわたっての持続可能な都市づくりを進めていきます。また、支所、地域交流センター、市民センターの機能をあわせ持った新たな施設として再整備することを担当部署において検討しています。
【その他のご意見】		
28	建設ありきの計画のパブリックコメントの実施よりもコロナ対策を優先してほしい。	第7次岡崎市総合計画などの上位・関連計画との整合、社会情勢の変化、本市主要プロジェクトの進捗などから今回の策定が適当であると判断しています。 新型コロナウイルス感染症対策については、担当部署において適切に実施しているところです。

29	<p>住宅地整備とマンモス校の解消</p> <p>・1,000人を超えるマンモス校もあり、30人学級どころではないのではないのでしょうか。10年後の2030年にはこのマンモス校は人口減により解消しているのではと考えるのはおかしい。</p>	<p>本市の人口推計では、2035年に人口のピークを迎え、年少人口及び生産年齢人口が減少し、高齢化が進行する見込みです。30人学級については、岡崎市30人学級実施検討会議を設置し、岡崎市立小中学校における30人学級の実施に向けて、教育施策（ソフト面）、教室の規模（ハード面）などの検討を開始しています。一方、都市計画マスタープランではマンモス校の解消について記述はしておりません。</p>
----	---	--

※いただいたご意見は趣旨を損なわない程度に要約した箇所があります。